

朝を  
ひらく

永田 円了  
真国寺住職



人生、楽しいから生きるのか、それとも、生きるから楽しいのか。さてどう答えよう。楽しくなければ、人生じゃない、と考えるなら、ぜひこのエッセーを読み進んで頂きたい。

ストイックという言葉がある。これは、禁欲か、いや違う。ストイックの真の意味は、楽しくても、楽しくなくても、人生そのものの中に生きる意味をみつける生き方をいう。生きがいとか、喜びは目的ではなく、それらは生きた結果として得られるものとする考え方である。

ストイックとは

紀元2世紀に在位した16代ローマ皇帝マルクス・アウレリウスが書いた「自省録」より引用する。「全てのは、もとをたせば、一つのエネルギー。宇宙は始まってから137億年、未だ成長し続けている生命体であり、物質と魂として存在している。その宇宙と私は一体である」。つまり、我々はみな宇宙の住人として共同作業をしていると捉える。

この共同作業において、仕事

の効率、能力の優劣は問題にならない。眠っている人さえ働き手の一人であり、宇宙の共同作業者なのだ、という考えかたである。例えば、喜劇には必ず笑わせるための、くだらないセリフがある。それだけみると、実にくだらないのだが、全体には必要なものである。

もし、古代インドが今のデンマークやスウェーデンのような福祉国家であったなら、きっとブッダも幸せな市民の中心、幸せな王子として一生を送り、悟りは開かなかったであろう。

ストイックな人生とは、個々の夢や目標の実現ではなく、宇宙が必要とするミッションを、自分の損得、好き嫌いを超えて

て、果たしていくこと。自分の置かれた場所で、退行せず隔離せず、否認せず抑制もせず、事態に凍として役割を果たしていく態度。自分が生まれた理由は、宇宙から与えられたミッションを果たすことにあり、死は宇宙への帰郷である、とする考え方である。

私は船に乗った、航海した、岸に着いた、では上陸だ、というように時を過ごす。生まれて生きて、働いてやるべきことをして、命が生まれた宇宙へ還っていく。

冒頭の問い、「楽しくなければ、人生じゃない」の、まさに真逆の生き方である。果たしてどちらの人生観が人を幸せにするのだろうか。いや、幸せというより、より深く、ぶれない人生を送ることができるのか、時間をかけて考えてみる価値は十分にある。

宇宙からの任務遂行